

# みやけの風

## 第 254 号

平成17年(2005年)12月24日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

今年もいよいよ押し詰まり、皆さまのご協力で配信して参りました『みやけの風』も、今年最後の号となりました。ご愛読ありがとうございました。今年は皆さまにとりまして本当に多くの変化と直面する大変な一年だったと存じます。10月にみやけじま 風の家も、ようやく軌道に乗り、訪れる皆さまに毎日ゆったりとおだやかに流れる 風の家 時間に親しんでいただいています。どうぞ来年もよろしくおつきあいくださいませ。それでは皆さま、よいお年をお迎えくださいますよう。

### みんなの声

#### ボランティアの方々に感謝の気持ちを一言

12月15日、その日は朝からよいお天気で温かい日だった。初めて<風の家>にお迎えを受け、伺った時に、なんと温かみのあるお家であろうと思った。

久しぶりにお目にかかった方々と共に、お話をしたり、お昼は心のこもった手作りのごちそうをいただき、その後は三宅島の唄を心の晴れるまで歌った。帰りがけには、次男山の噴火の有様をながめ、島々を臨む天皇のお立ち台の展望台迄連れて行って見せていただき、なんとみじめな島になったものだと感じ、これから先の三宅島を思えば悲しくなった。最後に島の守り神である富賀神社の方を廻り車の中からおがみ、それぞれの家迄送っていただきとてもうれしかった。

80余年も生きていれば、色々とおもしろかった事、悲しかった事、こまった事、様々な事に出会い生きてきた。

思えば。平成12年6月の噴火以来、八王子に避難してボランティアでお世話になり、又、三宅島に帰ってきてびっくり、家は白アリでやられ、家の廻りはジャングルみたい。倉庫の中は雨もりで品物はぐしゃぐしゃ。又、それを出していただいたり、草取りと大変お世話になりました。

何とありがたい事であろうと思ひ、私の心からのどうもありがとうございますの気持ちを受けて下されば幸いです。

(坪田 山本 美代)

#### 島で生きていく素晴らしさ

イルミネーション、サンタクロース、BGM。歩く人々の足早に歩く人混みの中で、自分は本当に、5ヶ月前までここで生活していたんだろうかと不思議な感覚を味わった先日の上京でした。

都会の生活とは違って、ゆっくりとそれで居て遅く、時が流れていくような島の生活。西風に吹きさらされながらも、餅をつくのになつま芋の干しっこ作る頬被りの姿、大根切り干しを作るのに冷たくなった手と顔を摺り合わせている姿、あしたばの種を蒔く準備の鎌を持つ姿。風の家で古くから唄われる島の歌を後世に残そうとする歌い手の姿、漁船で顔を真っ黒にして海で働く漁師さんの姿。みんな遅しさと優しさに溢れている。三宅島の厳しい生活の中で島の方々から、生きている事の素晴らしさを今ひしひしと感じている。

この島の素敵さをカメラに納めてくださったりウ・ミセキ氏の「脱皮」というタイトルの写真展を機会があって見に行くことが出来ました。どの作品も島人の元気で深刺とした姿をとらえてありました。表情の豊かさから本当に自分自身が元気づけられるようなそんな雰囲気を感じました。何度も何度も噴火に見舞われているにもかかわらず、こんな笑顔で居られる島の方々の根性、常に前向きに生きていこうとしている姿を、皆さんに広めていただけたことが凄く嬉しかった。

また子供達の笑顔の写真が素敵でした。

私達も、大勢の方々の手をお借りしながら、こつこつとこの噴火災害から脱皮しようと頑張っています。

(神着 早川 マス子)

**みやけふれあいコールよりお礼をこめて**

今年も残り少なくなりました。寒波襲来で、各地大雪に見舞われ、三宅にも32日も早い雪の便りが届きました。

その後、皆さまおかわりございませんか？

『ふれあいコール』も始めて5年の月日が流れましたが、今年最後となりました。

振り返って見ますと色々な方とのふれあい

がありましたが、これも皆さまのご協力をいただけたおかげで成り立って来れたと思います。

避難解除帰島後初めて迎える新年、どうぞお身体を大切に越年くださいますよう、お祈りいたしております。

本当に長い間お世話になりました。

(阿古 若木恵美子)

**東京災害ボランティアネットワークより**

これまで東京災害ボランティアネットワークは、さまざまな被災地で被災者の方々を支援させていただきました。その中で多くの場合、わたしたちは支える人で、被災地の方は支えられる人という関係でした。しかし、2000年7月からのみなさんとの縁は、支える人と支えられる人という関係を越え、人と人が本当にやさしく生きていくための方法を共に考える友達の関係になれたのではないかと思います。東京災害ボランティアネットワークは、この関係を大切に、「みやけじま<風の家>(三宅島災害・東京ボランティア支援センター)」の方々とともに2006年も島民の皆さんと共に人にやさしい活動を心がけ、そして来たるべき災害に備えています。

(東京災害ボランティアネットワーク)

**～ みやけじま「風の家」より～** 12月24日

三宅島支援センターでは、5年ぶりの島でのお正月を迎えるに当たり、「年末のお掃除ボランティア事業」を三宅島社会福祉協議会とともに実施をいたしました。12月23日(金)には12名の東京からのボランティアと一緒に、三宅中学校の生徒6名が参加をしました。

赤い帽子のボランティアと中学生がそれぞれ組を作って、数件のお宅に訪問し、ゆっくりとした交流と窓拭きなどの掃除のお手伝いをしました。

一日ゆっくりと交流をもつなかで、お伺いしたお宅のみなさんのさまざまなお気持ちや、この5年間を振り返るお話などをお聞きすることができました。

帰島後、自宅の再建や畑の開墾など、くらしの建て直しにただただ走ってきた皆さんですから、中には今回の訪問をきっかけに「いやぁ～、これで本当にお正月が家にもくるんだねえ～」と感じられたとおっしゃる方も居られました。

ご一緒した中学生も、お宅の方々に気持ちを寄せながらやさしく声を掛けたり、お話を伺ったりしながら過ごすとてもやさしくあたたかい時間が流れました。中学生のみなさんにとっても、きっと大切な一日になったのではないかと思います。

島では、「今年は船祝い、やるのかねえ?」「うちは息子夫婦が帰ってくるから、準備がたいへんだよ」など、それぞれのお正月を迎える準備が始まっています。みやけじま<風の家>は、27日のおもちつきを最後に今年を終了し、新年は10日より開設します。来年もどうぞよろしくお祈り申し上げます

名物の「西風」もだいぶ調子を上げてきました。寒さもさらに増してきました。どうかみなさん、お身体にはくれぐれもお気を付けられ、心穏やかな新年をお迎えになりますよう、また新年が希望にあふれ、明るい一年になりますようお祈り申し上げます。

**みやけじま<風の家>**

〒100-1212 三宅村阿古 532-1 TEL 04994-5-1470 FAX 04994-5-1471

『みやけの風』新年号は1月7日発行の予定です。皆さまからの年越しの想いなど原稿をお待ちしています。三宅島災害・東京ボランティア支援センター『みやけの風』担当

FAX: 03-5229-1646 E-mail: tokyocenter@cmpo.org